

校 訓：人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう

学校教育目標：自ら学び、心豊かにたくましく生きる七塚っ子の育成



# 薫陶

学校だより くんとう

7月号 令和5年6月26日

七塚小学校長 稲垣 優子



七塚小HP QR コード



## 7月 1学期もあと1か月です

～様々な行事で、活躍している七塚っ子～

樹木園のアジサイが、とても美しく咲いています。駐車場横の木津桃も、赤い実をつけ始めました。いよいよ7月、1学期もあと1か月となりました。たくさんの行事や学習活動が、以前のように行えるようになり、本校児童の素晴らしい活躍が見られています。

まず、6月2日(金)西田幾多郎記念哲学館で行われた県学童話し方大会において、3年2組高橋果鈴さんが、優秀賞を受賞しました。6日(火)に行われた市小学校器械運動交歓会では、4年生が参加し、質の高い演技を披露してくれました。13日(火)に行われた市小学校音楽会では、5年生が参加し、150周年記念式典にも披露するモーツァルト作曲『おもちゃ』シンフォニーを合奏しました。ポップス調の曲を披露する学校が多い中、クラシックでの難曲での挑戦は格調が高く新鮮に感じました。また、学習活動においてはプール学習がスタートしています。5・6年生のおかげでとてもきれいに掃除されたプールです。今年度は夏休みのプール開放も実施する予定で、3年生の保護者の皆さんが、9日(金)午前、救命救急講習会の開催もしました。

そして、いよいよ150周年記念式典に向けて、たくさんの準備が本格的に進んでいます。学校玄関と体育館には、6年生が作成したためあてが掲げられ、同じく6年生が作成した150周年便り「七つ星-NANATUBOSHI-」が発行され、各クラスに届けられました。会場に飾られる子供たちの作品もどんどん仕上がり、みんなでこの式典を盛り上げようという気持ちがぐんと高まってきているのを感じます。

150周年という記念すべき今年1年が、子供たちにとって実りの多い年になるよう、児童や先生方、保護者、地域の皆様と力を合わせ、ともに進めてまいりたいと思います。今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。



校章にもみられる木津桃の実



3年生 話し方大会優秀賞受賞



4年生 市器械運動交歓会参加



玄関の150周年スローガン掲示

## 七塚の偉人について学ぼう① 「高橋ふみ」ってどんな人？

哲学者、西田幾多郎のめい(ふみのお母さんが幾多郎の妹)で女の人が勉強を続けて学者になることが、珍しい時代に、ドイツにも留学し、哲学研究者となった人です。大学で哲学論文を書いたり、西田幾多郎の論文をドイツ語に翻訳したりしました。また、東京やドイツの学校で、先生として多くの子供たちを教え、女の人も学問を続ける大切さを訴え続けました。ふみが生きていた頃の日本は、女子が小学校より上の学校で勉強を続けることが難しい時代でした。学校でも男女が別々の教室で学ぶのが当たり前で、学ぶ内容も男女それぞれ違って、女子は裁縫や料理など、家庭で役立つことを学ぶ時間が多くありました。勉強ができて、勉強を続けたくても、女子が入ることができる学校も限られており、勉強することが困難な時代だったのです。当時、東北帝国大学(現在の東北大学)が、国立の大学として初めて女子の入学を認めただけでした。ふみは、12歳でこの七塚小学校を卒業した、私たちの先輩です。そして、大学を卒業した人を「学士」と言いますが、実は石川県で初めての「女性学士」です。 [本校「高橋ふみコーナー」説明書きより]

150周年という記念すべき年にあたり、本校にゆかりのある素晴らしい方々について知る機会を得ました。ぜひこの機会に、保護者、地域の方々にもご紹介したいと思います。

